

第16回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



小学生の部 優秀賞 受賞作品

『ただいま』

アメリカ
シアトル日本語補習学校
小学五年 塩月 陶子

ただいま

シアトル日本語補習学校 小学五年

塩月 陶子（しおつき とうこ）

私は生まれてから十一年のうちに、六回の引越をして七つの街で育ってきました。その中で、「私のまち」という言葉がしつくりくる場所は、東京都文京区本郷です。

私は、この街に六歳から九歳まで四年間、家族と暮らしました。友達や先生との思い出がたくさんある小学校や学童、毎週通った図書館や屋内プール、塾の帰りに父と寄るのが楽しみだった遊園地、自転車練習をした東京大学、金魚すくいに夢中になった金魚屋さん、買いに行くとき毎回おまけをくれたおかき屋さん、おみこしをひいた神社のお祭、習い事の前によるのが日課だった坂の上のコンビニ……。この街で過ごした思い出はつきません。

父の仕事の関係で、本郷からアメリカ・ワシントン州シアトルに引越すことになったと聞いたときは、「この街から離れたくない、ずっとここにいたい」とさみしい気持ちがありました。友達と離れて知らない街に引越して一人になりたくないと思いました。

引越してみると、日本と違うことが多くて混乱しました。小学校では、英語ができないので先生や友達の言うことが理解できなく、ピザやマカロニチーズといった給食はおいしくありません。車で移動することがほとんどで一人で街を歩くことはできません。いつも母と弟と一緒にストレスがたまりました。バス停にはホームレスがいました。しかし、慣れてくると街のいいところに気が始めました。毎日友達となり同土に座って話をするスクールバス、思い切り体を動かすことができる遊具や芝生がある大きな公園、日本語のお気に入りの本やまん画がある図書館、お祝いの時に行く飲茶レストランやタピオカ屋さん、たたみや日本語の技にほっとする合気道の道場……。家や新しくできた友達と過ごした思い出の場所がどんどん増えていきました。

この夏、日本に一時帰国して本郷の以前通っていた小学校に一ヶ月間通いました。久しぶりの街をなつかしいと思う気持ちと、以前あったお店や建物が変わっていることに気がつき、少しさみしいような、私だけ取り残されたような気持ちになりました。小学校では、仲がよかった友達と再会しました。また一緒に授業を受けたり、休み時間に遊んだりできて楽しい気持ちになりましたが、なにかがズレてしまったような気持ちになりました。住む場所やかん境が変わると分かり合えない部分が生まれたのかもしれない。でも、友達のことが好きな気持ちは変わらないし、そのズレてしまったところを見つけて、「もし変わらば本郷に暮らしていたら……」と想像して楽しい気持ちになりました。

夏休み前の終業式の日、「また来年も帰ってきてね」と先生や友達、クラスメートに言われました。引越しが多くて大変なこと多かったけど、その代わりに私が帰ることができる街、私を待っていてくれる人がいる街がたくさんあるのかもしれないとあたたかい気持ちになりました。そんな街に帰る時、私の変化や成長に気付けるような気がしました。

「私のまち」を表す言葉は、「ただいま」です。